



特別
A13
4456
1



風之部



一 婦も妹も世らうぞ
 候の糸ぢ子おぢうこ十粒者
 びき乃縁紐をのわうこぐ
 二 心乃糸ぢうふんおぢ
 魚西のわづりのまんをの縁紐を
 糸女九の西位所の糸乃縁紐
 三 風吹乃りんこうてひこ
 うそや田舎の縁名を年仲わづり
 ようのよのまのちのめくまれさ
 四 風海乃づうしんあづり
 魚のそのおぢひれ糸礼の糸の糸
 糸乃糸境糸乃糸あま

月之部



- ① とうじゅうのむらさきのあけの月
 八十余葉の田のあけの月のあけの月
 主命のあけの月
- ② 月影のあけの月
 茶の湯のあけの月
 玉のあけの月
- ③ わがやうのあけの月
 ちのあけの月
 やはのあけの月
- ④ 花のあけの月
 伏のあけの月
 ぬがひのあけの月

① 花のあけの月

鏝と雀のあけの月
 羨花一掃其あけの月
 や仰のあけの月
 のあけの月
 なあけの月
 け金竜のあけの月
 ありけのあけの月
 けてとあけの月
 こいよあけの月
 清くあけの月





字れどく。すうしおぬさるゝと好家人とわきどなりし。
お茶八州人よ潮唄さも何とぞあれ。瀧の繩は投ぎぬのつき
うこか契はすづれて。藤の穿毬。名の本はわりよ。憎せ勤
めら屋敷らつと。玉臂の人枕。朱唇万家よ。掌させ。うき
なり。を契きおとをみ。うけ可も。は男有頂天。おて
い。い。信。あ。や。浪。せ。ら。く。え。め。ら。り。に。ま。三。浦。を。花
お。紫。を。尾。じ。う。た。は。伊。の。字。の。右。今。れ。右。又。織。り。あ。
う。り。あ。一。方。の。中。道。中。羨。形。の。山。文。お。勤。う。て。お。れ。お。言
と。禁。の。根。と。い。なり。め。う。く。よ。ん。後。て。揚。屋。所。り
ゆ。き。一。に。お。も。れ。病。め。と。大。良。善。耀。して。煙。屈。酒。の。遠。服。醉
れ。ぬ。され。よ。つ。ば。あ。ら。も。房。付。花。よ。お。色。ぬ。と。ん。白。ひ。む。あ。る

大教義れ中いりうらうらと。愛やん。と。人。と。う。や。
う。ゆ。欽。樂。花。藤。を。と。た。り。す。は。瀧。山。文。の。あ。う。び。も。や
い。う。わ。く。と。目。は。極。樂。志。と。う。極。め。ん。ご。一。極。の。香
り。と。あ。ま。里。へ。と。ゆ。く。と。急。と。移。る。ら。う。め。と。を。の。く。
儀。茶。寺。よ。多。行。々。海。作。く。仁。王。十。四。代。推。古。太。皇。の
御。宇。に。建。之。と。い。ん。と。ん。一。不。主。欽。も。岡。東。寂。初。の。伽。藍。う。て
天。騎。を。双。の。御。伴。たり。此。来。寺。ふ。お。ま。の。梅。堂。へ。て。そ。ゆ。
お。小。作。ら。う。し。ま。ご。と。い。ん。し。人。と。終。さ。り。は。ま。法。の。む。う。男
業。平。の。面。影。を。社。り。と。め。と。う。れ。是。陰。陽。の。神。と。て。久。と
好。め。お。人。と。好。ま。し。よ。祈。り。う。ら。う。か。男。は。厨。ろ。よ。右。日。の。三。孫。家
て。び。あ。ら。ぬ。ゆ。す。久。遠。の。早。也。と。ら。ど。け。終。り。れ。紙。と。は。

十六乃とてぐみは鏡よ梅しめ月を流し。是れと
露と露かてうさゆびわけても人さうりた。我を其
とにいらく然いよと是れと只何とめく是れと
いぬとありあふ道よお狭入といふれ。露黄の
も花わけがの別をぬの端に足らさしあつて
我恋よはあさるは蓋を。身はうこれ望とて梅りじ
う一野國のう一野。東叡山のその燈をよも
又ぬ衣若幕ひののきぬけい山とてん。とを管
それくの家れ風流うさて。面影と流めけるふ
つひとちゆりうの夢形をなうりた。とて是
がとたひ人わさる吾あさる。雪は横たしていふ

事じやこそそなたの女房どもは石思儀もてさ次と自よ
かなぐと。解とせぬ先ふ氣とうのあまをり。梅屋ふ
山さうと入む。程なく昔中れ。吹掃きせり。くがふと
是まそとねよわ。と梅。時のも。おんとおけてあ
そびあ。ぬと酒ゆ。黒に。赤は。並木の。梅屋も。露の
と。う。し。も。も。車坂と。おのり。う。梅。よ。夏。と。は。う。
と。梅。中。が。お。い。る。う。梅。く。お。先。へ。梅。の。長。切。が。
梅。の。露。く。う。一。對。の。梅。お。つ。と。そ。も。梅。の。さ。ゆ。み
わ。ま。と。梅。後。ハ。ス。と。に。年。あ。う。梅。く。れ。あ。こ。し。
左。右。よ。き。く。梅。さ。女。二。人。梅。花。深。ゆ。り。梅。の。枝。よ
あ。う。梅。梅。と。あ。う。一。同。し。と。う。梅。梅。梅。う。



倅一海事あり我目おしる家より海も何の
船ひも卯たかろりり大殿作死去の儀極悪はよ
らし身とあつてすこし八たもひやまよしと氣わをど
して小落せ給ふ敵は何とのおぼしめし出されろも
と思ひあつてあつて中むむのふ魚つらうてじつと
まづま海中の驚れつがひあつてもあつて身は誰と
もどつてせまをて清目通つる女中よる内池の事
何よりいふあつてらするまの折後とつせられ
是のゆふふ細きし清茶花あつてむされたり
卯さ海女もはあつてよわら事なり人かあつて
もしるはあつてと西老後の思ひあつていふりてと

熱おと進びる云義下より船むつひく船ひ一男
傾城町とんせしと作せろ海それとやすれ清殿をか
きとむらういふあつて梅の蔭生れと橋よま町と二日
ぐらうに梅しあつてらあつてむい書とつそげとゆき
みゆり梅子舟船橋のむらうつがひよあつてのあつて
うらうらうらした志のびあつて義盛なる海二十余人さうや
こころりま髪と茶飲よ金の平髪とつらせんとら
付させおろし身は白粉とあつてむらうの肉
衣とむらうかろくろ又潔れはむ極度の事まよむきバ
せとむらう書口して細目よあつて味よあつてのびあつて
こころりま髪とあつてらあつて又双六とつらとあ

八重うすのちも神子ゆ因とらや子女乃風流すか
たのらうのちも舞妓とらふ面影めりて今れさきの
女れすあつま形さりとらふ家道嬉しの月うらと
まハ珍難し。あつたまのび入只みくろすな居あとの
こ。女横あのも次唯しと舞ひわたりてゆさうり
とむらゆららして楽し。いさこ船をのらうら
んろ人志のまりの隣りの女中と海とやのし
とまぬきとて帯仕移りと脱ぐあわりの娘なうら
海付れ志海し。夫白齒とてあうらた。あうらんと
肉具ゆさうのゆりしてあはくさな海あよは芝居ま
君なりし形とて糸糸めしあはくせ。腸とありの言と

いこくはたす嬉しきうに秘め。そこをち事しは樹し家
風流ゆえ海とらなうてともれ通ふあつたれさうし女
乃れ男の男乃とゆびんよあうられなうらとら
習乃くえ流と居難し。丹後と名とて定めて後娘
とゆであゆべと。かりく。あまの事かうら。遊有法
草紙よかうら。さ。女居あさうら。く。世のさゆ。か。うらと
男あうらうら。年がゆか。か。中。居女れ。え。こ。て。まも
せゆ。さ。い。志。うら。い。ハ。明。城。ま。ぬ。よ。と。と。と。後。え。ん。た。ま。と。あ。つ。の
々。ゆ。わ。く。ゆ。の。さ。う。ら。さ。い。風。あ。舞。先。い。う。ら。う。ら。の。あ。と。ま
飛。ま。ま。よ。し。う。ら。た。箱。う。ゆ。わ。と。れ。切。れ。ら。る。や。も。わ。り。て。乳。ふ
う。ぬ。い。れ。う。ら。ま。し。て。ゆ。さ。い。え。ハ。ぬ。の。し。と。び。ゆ。あ。う。ら。と。し。



萩
一

と湯一郡とありさういふてがら。その後女中と氣晴し
お毎として發切す。このかた他人の。おるは。傳らね。し
ま。お。程。を。な。り。海。の。さ。ひ。の。下。女。が。仕。業。と。く。く。ま。り
身。へ。日。本。國。の。律。く。引。て。ね。の。尾。の。大。明。神。と。ま。ま。ま。入
酒。の。氣。を。味。と。し。し。字。活。月。花。摘。を。ゆ。ら。り。は。傳。ま。と
は。よ。傳。ま。し。は。ら。い。は。り。さ。ゆ。ま。と。湯。道。よ。れ。ま。と。し。は。
と。ろ。ろ。と。あ。い。く。た。れ。な。り。傳。ま。し。と。て。童。役。を。あ。し
す。か。う。海。中。に。お。娘。さ。ゆ。よ。か。う。若。さ。る。ん。ま。女。船。さ。し。船
つ。て。伝。言。の。あり。さ。海。の。は。さ。よ。な。り。さ。う。ゆ。つ。と。ま。あ。ん
か。と。と。く。く。ら。り。は。振。神。と。ま。と。て。傳。ま。ら。り。冷。分。ら。り
け。ま。と。ま。と。七。八。ら。り。ゆ。と。と。あ。い。く。日。本。の。氣。の。あ。と

わとまら
き。笑。ん。て。け。う。と。う。り。き。ま。い。弘。法。大。師。も。あ。り。か。ゆ
を。い。い。に。法。向。の。ゆ。と。ま。ね。と。と。あ。ま。り。な。り。海
男。目。と。常。卷。よ。あ。び。わ。ら。り。は。傳。ま。ら。り。女。さ。く。が
口。と。す。は。り。あ。り。我。く。と。い。ま。い。あ。の。女。れ。も。か。れ。と。
せ。り。海。の。あ。り。さ。び。と。か。し。書。は。も。貴。と。ま。あ。せ。と。え。あ
ま。い。と。大。勢。ひ。ま。ま。く。わ。し。事。は。も。身。も。ま。ま。い
ら。ま。い。か。ら。の。お。ろ。く。肝。と。つ。ゆ。い。常。卷。よ。大。勢。ひ
合。め。の。よ。れ。と。ゆ。は。せ。し。け。子。細。ら。り。ま。ま。い。あ。り
あ。い。け。の。あ。り。と。あ。い。け。の。あ。り。と。あ。い。け。の。あ。り。は。ま
あ。い。け。の。あ。り。と。あ。い。け。の。あ。り。と。あ。い。け。の。あ。り。は。ま
あ。い。け。の。あ。り。と。あ。い。け。の。あ。り。と。あ。い。け。の。あ。り。は。ま
あ。い。け。の。あ。り。と。あ。い。け。の。あ。り。と。あ。い。け。の。あ。り。は。ま

